

## 第2回協働推進委員会記録

|     |  |
|-----|--|
| 日時  | 令和3年11月11日(木) 18:30~20:00  |
| 会場  | 豊明市役所 本館3階 会議室3A、3B  |
| 出席者 | 委員：三矢勝司、根尾文彦、石原 慎、古田みのり、兼子幸夫、安井昌代、田内祥子、浅田定弘、松本信之、川津昭美(以上10名)<br>豊明市：市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員(3名)<br>傍聴者1名 |

### 議 事

#### 1 三矢委員長あいさつ

#### 2 前回のふりかえり

○事務局より会議録(資料1)に基づき説明

- ・多世代交流館は共生交流プラザに名称変更したという認識でよいか  
→問題ございません
- ・第3回委員会が1月ごろになりそうとの見込みだが、パブリックコメントは引き続き1か月期間を設けるという認識でよいか  
→問題ございません

#### 3 協議事項

◆第2次協働推進計画の中間見直しについて

(1) 市民意識調査アンケートの結果及び分析

○事務局より資料2、3に基づき説明。

— 質疑・意見交換

- ・40~45歳の層で防災意識が高く、この世代の方々に地域の自主防災組織の理事をやって頂きたいと考えていた為、リクルート活動に力を入れていきたい。
- ・60~70歳の層で全ての項目の関心が低くなっており、この年代の方々は色々なことに興味を持ち活動していかないと健康寿命が短くなるため、この年代を色々な活動に引っ張り出す活動が大事だと思う
- ・コロナ禍ということもあり、地域の祭りや行事が中止している。コロナ終息後に改めてアンケートを実施して市民の意識の違いを調査してはどうか。
- ・地域の歴史や伝統を守るという項目について、40代は機会あれば勉強したいと思っているのではないか。
- ・歴史民俗資料室の当番をやっているが、親子連れで来る方は多い。興味がある=活動するという事にはならないと思うが、きっかけ作りには良いかもしれない。
- ・40代をターゲットとして、行動変容を促すと良い流れが生まれると思う。

- ・アンケート調査対象の母数（外国人、30代以下の子育て世代）が変われば、見えてくる課題も変わってくる。
- ・資源ごみの分別が出来ていない外国人がおり、そこを改善していくことで地域の治安向上にも繋がるのではないかな。
- ・外国人を身近に感じる機会が、会社の実習生として接するか、学校で子どもから同級生にいたるとの話聞きくことなので、40代以上に限定している今回のアンケートでは課題として見えにくいのではないかな。
- ・瀬戸市や知立市では、全員または半数以上を外国人が占める学校があるので日本人がマイノリティになっているケースもある。
- ・40代以上のアンケートであり回答の偏りは理解した上で、分析結果をみる必要がある。
- ・資料3分析結果の赤いラインの意味は。  
→各項目の平均でラインを引いています。
- ・アンケート回答率が約4割なのは、高いのか低いのか。  
→一般的な行政アンケートは4割を切ることが多いので、高いと認識している。
- ・パブリックコメントを募集するときは、グラフの意図が分かるものをつけた方が理解が得やすいと考える。
- ・情報取得に回覧板が有効という結果が出ているので、今後は力を入れて地域に情報を伝えられるように努めていきたい。
- ・回覧板は、メールマガジンと違い直接目の前に届くのでインパクトが強いと感じる。

#### 4 報告事項

##### ◆豊明市共生交流プラザの進捗について

○事務局より資料4に基づき説明。

- ・無料スペースについて、一部占有したい場合の料金は。  
→基本無料を想定している。
- ・フリースペースでのパソコン教室や小規模のワークショップを開催したいが可能か。  
→個人、団体問わず、広く来館者に対して価値が提供できる活動については利用して頂きたい。
- ・南館1階にある歴史民俗資料室は、元々唐竹小学校にあったものか。  
→唐竹小学校の北館1階にあったものです。
- ・名称が多世代交流館から共生交流プラザに変更になった経緯は。  
→この施設が目指すもの、実現したい社会を描き市の幹部で決定した。これまでの市民交流センター、公民館、児童発達支援センターなどの機能を持った複合施設であり、基本的に利用者全員が同じ条件で利用してもらうことが一番のポイントである。誰かの趣味活動が、必要とする人には福祉的な意味を持つことになり得るので、個人、団体、企業問わず全て応援していきたいというのがこの館の主旨でありこの名称に決定した。
- ・コーディネーター機能を指定管理者が担うのか。  
→指定管理者に求めるコーディネーター機能としては、施設内で活動される方々を支援していくこと。中間支援やコーディネーターは地域を回る方という認識をしている。
- ・市民交流センターでは、施設外でも活動していたので共生交流プラザに機能を移管すること

で弱体化を懸念している。

・豊明市における中間支援の一翼を担っている方々の分野を可視化し、今後どのような分野を強化していくべきかを議論していきたい。

→40代や子育て世代への中間支援やコーディネーター機能は弱いと認識している。この部分での中間支援やコーディネーター機能の強化を今後の議論としていきたい。

## 8 その他

第3回協働推進委員会は、会議内容を調整後、1月下旬開催を目途に改めて日程を調整する。